

英語		日本語		思考プロセス	参考	講師のコメント
<p>Businesses no longer can continue on the path that they were at. That's the opportunity and that's the silver lining.</p>		<p>もう今までの>もはや</p> <p>これこそが機会・チャンス（場によってはオポチュニティを使います）であり、希望の光なのです。</p>		<p>思考プロセス</p> <p>lining と「一縷」の厚みが似ているから、ピンときたのは「一縷の望み」だが、元の意味とは少し違う。 Cambridge Dictionaryによると、a silver lining というのは「an advantage that comes from a difficult or unpleasant situation」ということだ。</p> <p>でも、実用日本語表現辞典によると、「一縷の望み」のところに「ごくわずかな望み。『一縷』とは糸のひとすじを表す語。」としか書いてない。 逆境の中で希望があるという要素が含まれていないらしい。そうですね、確かに。</p> <p>国際通貨基金のブログには、「銀行部門の混乱によって、銀行が貸し渋り、景気全体の減速につながることは明るい兆候である」という用例が見つかったが。</p> <p>旺文社国語辞典第十一版を引くと、兆候というのは「何かが起こる前ぶれ。きざし。しるし。『噴火の一がある』『景気回復の一』」ということだ。</p> <p>一方で、トウシルという楽天的投資情報メディアの記事の見出しに、「一筋の希望」という言い回しも出た。 文脈:「今、語るのはまだ早すぎかもしれませんが、新型コロナウイルス感染が終息した後の世界で、少しだけ見えてきた部分もあります。」 暗闇の中で、何らかの明るい将来が見えてくるという意味合い。これが一番元の意味と近いと考えられる。 good thinking</p>	<p>https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM06D2T0W3A400C2000000/</p> <p>https://dictionary.cambridge.org/dictionary/english/silver-lining</p> <p>https://www.imf.org/ja/Blogs/Articles/2023/04/11/global-economic-recovery-endures-but-the-road-is-getting-rocky</p>	
<p>Well, let's start with the bad news.</p>		<p>では、悪いお知らせから始めましょう。</p>		<p>朗報の対義語としては、どれがいいのだろう。凶報、悪報、悲報、どれもbad news になり得るに見える。 Do you want the good news or the bad news first? とよく言うけど、適切な和訳は？</p> <p>全部の定義は旺文社国語辞典第十一版から引く。</p> <p>悲報とは、「悲しい知らせ。特に、死去の知らせ。『恩師の一に接する』⇔朗報」 悪報とは、「① 悪い知らせ。凶報。② 『仏』 悪事に対する報い。」 凶報とは、「悪い知らせ。特に、死亡の知らせ。凶聞。⇔吉報」</p> <p>でも、国立国語研究所のコーパスによると、「悪報」が全く出ない。それに、「凶報」より、「悲報」の方が頻度が高い。 用例は全部死亡に関連するらしいし、信頼できる記事では減多に使われていないそうだから、教育系サイトへ。</p> <p>日本広告工芸社の運営している「社会人の教科書」というサイトを参考にした結果、凶報の方が相応しそう。 「凶報の「凶」は、これもおみくじで周知のとおり、「良くないこと」「縁起が悪いこと」を意味しています。つまり、凶報とは、「何か良くないことについての知らせ」であると言えます。（中略）。意味としては悲報とほぼ同じで、どちらを使っても問題ありませんが、強いて違いを挙げるとすると、凶報の方が、比較的ショッキングなニュアンスが強いということが言えるでしょう。」</p> <p>しかし、この本ニュースの内容は別にショッキングではない。 凶報はかなり強い意味になる、縁起が悪いため、減多に使用されません。 I have good and bad news を和訳する日経新聞の記事が見つかったが、「いいニュースと悪いニュースがある」と言うふうに訳したのだ。</p> <p>従って、広義にはデメリットがあるけれども、一定の漢語ではなく「悪いお知らせ」の方がいいと言える。</p> <p>上記のように、sad news だと、知らせの内容を事前に知っているならば、「悲しいお知らせ」より「悲報」や「凶報」を用いた方がいい。 例:「遠藤のほうは、からだは大きくないがけっこういけるくちで、しかし思いがけぬ悲報に接したところで酒なんか飲んでは、編集長がよい顔をしなないし、それよりもギャレスの急死で原稿が入手できぬことにでもなったら、これはもう破局である。」(C.W. ニコル著; 村上博基訳『白河馬物語』, 1989, 933)</p>	<p>https://business-textbooks.com/news-difference/</p> <p>https://www.nikkei.com/article/DGXDZO42075630R00C12A6MM8000/</p>	

			例：国際通貨基金ブログ		
	好ましいの使い方に難ありなので、 「中央銀行はインフレを嫌う 傾向があり…」		大辞林第三版によると、中央銀行とは「一国の金融機関の中核となる銀行。（中略）。またこれらの機能を通じて金融政策を行う。日本の日本銀行、アメリカの連邦準備制度、イギリスのイングランド銀行。⇒しちゅうぎんこう【市中銀行】。」		
Central banks dislike inflation		中央銀行にとっては インフレが 好ましくな い です。	つまり、外国の方が日本の中央銀行について話している時に、 技術として「日本銀行」や「日銀」と訳してもいい。 good	https://www.imf.org/ja/Blogs/Articles/2022/08/01/blog-soaring-inflation-puts-central-banks-on-a-difficult-journey-080122	
			central banks の対義語はcommercial banks である。上記の定義により、中央銀行の対義語は「市中銀行」	https://www.nikkei.com/article/DGXZQOQN210CX0R20C23A4000000/	
			用語があるかどうかを確認するためにまずウィキペディアを見た。対訳かどうかまだわからない。 早稲田大学のソーシャル＆ヒューマン・キャピタル研究所が出した記事に同じ言い方をしていた。 経済産業省の白書によると、「コロナショックは需給の両面のショックが相互作用して経済悪化が深刻化するものであり（後略）」と書いてあるので、その「需給の両面のショック」を片側指すときに「供給ショック」と「需要ショック」という言い回しを用いてもいいと言える。	https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BE%9B%E7%B5%A6%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%82%AF	
But this is supply shock. And that's something we have to keep in mind.		日本語の経済用語では ショックは頻発します。 例：石油ショック、リーマンショック かといって、ショックをそのまま shock に必ずしも訳しません。	日銀のウェブサイトにも書いてある：「新興国における供給ショックの国際波及」 正負の版もある。positive supply shock = 正の供給ショック。negative supply shock = 負の供給ショック 反対側に、需要ショックもある。-> demand shock 例：内閣府・国際政治経済懇談会第1回会合（2020年6月17日）に使われたスライド	https://www.waseda.jp/prj-wishproject/covid-19.html	
			日経クロステックが提供した記事の「7割の組織が導入する？業務アプリ活用の要「デジタルアダプション」とは」という見出しの問いに、書き出しに「ユーザーが最初から適切にアプリケーションを使いこなせる状態を整えることを指す。日本語では「デジタル定着」などと訳される。」と書いてある	https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/wps_2012/wp12j07.htm	
digital adoption		デジタル・アダプショ ン デジタル（活用）定着	でも、初耳だと意味が分かるまい→デジタル活用定着 例：総務省の白書 デジタル化とも訳せるが、「アプリケーションを使いこなせる状態」という意味合いをなくしてしまうので、聞き手の想定する持っている知識に合わせて、固有名詞として使うべきだということもある 定着している用語とは言いがたいため、説明や言い換えは必要ですね。	https://www5.cao.go.jp/keizai1/kokusai_seikei/20200617/shiryou3.pdf	
		think again	commodityには色々な意味合いがあるが、「So a combination, I think, of these supply-side measures that Rima spoke about, the commodity price, the base effects beginning to kick in」という文脈であるため、今度は一般的な意味として捉える。 「商品価格」と思ったが、あまり使われていない。 旺文社国語辞典第十一版によると、「物価」とは「品物の価格。物の値段。いろいろな商品やサービスの個々の価格を総合して表したもの。「消費者—」ということである。よってcost of living は物価と訳されているが、commodity prices もこういうふうに訳せる。例：国際通貨基金	https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/keyword/18/00002/122200190/	
	経済用語のコモディティは特定の商品（小麦、金など）を意味するので、物価は間違いになります。 コモディティ価格です。 物価はもっと広くモノとサービスの価格です。		類語としては、「相場」、「市場価格」がある。market price に相当する。 上記の辞書によると、相場の一つの意味は「①商品のその時々値段。市価。時価。「金のーが上がる」である。 市場とは「市場の需要と供給の関係によって成立する価格。市価。」である。	https://www.soumu.go.jp/pohotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd111310.html	
commodity price		物価	従って、「相場」には「価格の変動」という焦点がある一方で（例：日経の記事）、「市場価格」はあくまでその値段に焦点を当てている。	https://www.imf.org/ja/Publications/fandd/issues/2022/03/Future-of-inflation-partI-Agarwal-kimball	
				https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB10AQW0Q3A310C2000000/	

hurt those who are most fragile at the bottom of the pyramid	底辺に生きている最も脆弱な人々を害する	<p>旺文社国語辞典第十一版によると、底辺とは「②（比喩（ひゆ）的に）社会や集団での最下層。「—に生きる人々」である 例：世界経済フォーラム</p> <p>類語である「最下層」の意味としては、実用日本語表現辞典によると「複数の層を成しているもののうち、もっとも下位に位置する層。または、階級や身分のうち最も低級の段階」 例：総務省総合通信基盤局</p> <p>違いとしては、「最下層」には身分が低いところを強調している。</p> <p>最底辺という言い回しもある。日経が発行したBottom Billionという作品の和訳は「最底辺の十億人」である。 でも辞書では見つからずに、割と口語のようである。国立国語研究所のコーパスにも用例が見つからない。</p> <p>国際通貨基金のブログにも、「財政政策はインフレ緩和と最脆弱層保護に貢献できる」という記事の見出しもある。これのおかげで、fragileを脆弱というふうに訳せるとわかった。</p> <p>最近作られていたため、調べた限りでは辞書には載っていないそう。</p>	<p>https://jp.weforum.org/agenda/2023/01/2023-infure-surumo-no-shi-enai-no/</p> <p>https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/oho_tsusin/policyreports/chousa/advisory_board/pdf/080130_2_si3.pdf</p> <p>https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/08/P46740/</p> <p>https://www.imf.org/ja/Blogs/Articles/2023/04/03/fiscal-policy-can-help-tame-inflation-and-protect-the-most-vulnerable</p>
deglobalization	脱グローバル化	<p>そうかといって、何本かの記事に見つかった。例：日経ビジネス</p> <p>「脱グローバル化が日本経済を大復活させる」という作品も存在する。</p> <p>対義語のglobalismがある。大辞林第三版によると、「グローバル化」とは「グローバリゼーション」である。 それで、「グローバリゼーション」を調べると「世界的規模に広がること。政治・経済・文化などの諸領域の仕組みや制度が、国を越えて地球規模で拡大することをいう。グローバル化。」というふうに書いてある。従って、対訳として考えられる。</p> <p>類語のantiglobalismは？これも辞書に載っていないが、経済学者が著した「反グローバリズムについて」という執筆が見つかった。</p> <p>反グローバリズムの一環として脱グローバル化的な活動を行なっていると考えられる積極的な対抗措置に対して、自然な流れという対比もあり得るので、必ずしもそうは言えないかもしれません。</p>	<p>https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00351/060900031/</p> <p>https://www2.jiia.or.jp/pdf/research/R01_World_Economy/01a-nakajima.pdf</p>
exogenous shock	外的ショック	<p>大辞林第三版によると、「外生的」とは単に「外に生じること。」 一方で、新明解国語辞典第七版によると、「外因性」とは「その物事自体にはなく、外部にあると考えられる原因。『一性精神病 ⑩』」</p> <p>よって、「外因性」では「自身へ影響を与えたものが外側に発生した」という意味合いを捉える反面、「外生的」にはそういう自身への影響という意味合いがない。ただ外側に発生したことを言っている。</p> <p>元々「外因性」の方が適切だと思ったが、実はexogenous shockは専門用語であり。United Nations—Economic and Social Commission for Western Asiaによると、「Exogenous shocks are unexpected or unpredictable events that occur outside an industry or country, but can have a dramatic effect on the performance or markets within an industry or country」という意味である。</p> <p>でも、外的ショックと外生的ショックの両方が使われている。例：内閣府、日本金融学会 だが、国際通貨基金が「外的ショック」を用いている。→「こうした国々は既に外的ショックへの脆弱性が高く」。</p> <p>でも、endogenousの場合は、なぜか「内的ショック」ではなく、「内生的ショック」が使われている。例：京都大学学術情報リポジトリ 言いやすさもあるかもしれません</p>	<p>https://archive.unescwa.org/exogenous-shocks</p> <p>https://www.jsmeweb.org/ja/annual/pdf/13s/13s-134ikedanaoshi.pdf</p> <p>https://www5.cao.go.jp/keizai3/2007/1214nk/07-00303.html</p> <p>https://www.imf.org/ja/Publications/fandd/issues/2023/03/crisis-and-monetary-policy-gita-gopinath</p> <p>https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/169215/1/KJ00006064479.pdf</p>

				<p>そのままカタカナで訳すことがある。例：日経新聞</p> <p>でも汎用の用語を使って意味を少しずつ作り上げる方法もある。outsourcing = アウトソーシングと訳せないことはないが、総務省が「外部委託」を用いている。</p> <p>でも「there's all the talk about nearshoring of supply chains」の場合には、「供給網のニアショリングも話題になっている」のように、ニアショリングの方が手っ取り早い。</p> <p>friendshoringという類語がある。これもそのままカタカナにして「フレンドショアリング」として用いられている。例：日経新聞</p>	https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN252NH0V20C22A8000000/ https://www.soumu.go.jp/main_content/000543101.pdf https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/878/ https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64353790V10C22A9TCR000/		
nearshoring		ニアショアリング 近隣国へ外部委託					
<p>参考文献：</p> <p>山口明穂、和田利政、池田和臣編(2013)旺文社国語辞典(第十一版)。旺文社。</p> <p>松村明編(2006)大辞林(第三版)。三省堂。</p> <p>山田忠雄、柴田武、酒井憲二、倉持保男、山田明雄、上野善道、井島正博、笹原宏之編(2011)新明解国語辞典(第七版)。三省堂。</p>							

言葉に対する情熱が伝わってくる作品となっています。A

東大の図書館に『語感の辞典』もあるはずなので、紐解いてみてください。